

## 金融緩和の原油市場への影響

—QE2による原油市場への投資資金流入—

計量分析ユニット 需給分析・予測グループ リーダー

柳澤 明

### 要約

11月2～3日のFOMCで、量的緩和第2弾(QE2)の実施が決定された。QE2は景気の刺激と広まるデフレ不安の阻止を目的としている一方、その影響で原油をはじめとするコモディティ市場に投資資金が流入し、商品価格が高騰するのではないかとの懸念も持ち上がっている。そこで、QE2が原油市場への投資資金流入をどの程度誘発しているのか、定量的な評価を行った。

金融緩和は金利の低下と期待インフレ率の上昇という2つの経路を通じて、原油市場への投資資金の流入をもたらす。マネー・マネージャーの建玉数（平均で約10～20万枚）で見ると、実質金利の1%ポイントの低下は投資資金による買い越し枚数を約2.3万枚増加させると推計される。一方、期待インフレ率の1%ポイントの上昇は買い越し枚数を約5.2万枚増加させる。これまでのところ、QE2はマネー・マネージャーの建玉数合わせて3.7万枚、額面32億ドル相当の買い越し増加に寄与しているものと推計される。

お問い合わせ: [report@tky.iej.or.jp](mailto:report@tky.iej.or.jp)